

# 平成 21 年度 第 3 回印西地区次期中間処理施設整備検討委員会 議 事 録 ( 概 要 版 )

日時 平成 21 年 11 月 26 日 (木) 午後 2 時から  
場所 印西地区環境整備事業組合 3 階 大会議室

## 出席者

学識経験者：横田委員、安田委員、藤吉委員  
関係市町村住民：小山委員、辻川委員、小玉委員、中川委員、森委員、岩井委員  
関係市町村衛生担当課長：玉野委員、川村委員、鳩貝委員、大野委員、小島委員  
印西地区環境整備事業組合：中澤委員、服部委員

## 欠席者

荒井委員

[事務局] 高橋主幹、藤巻、海老原 (進行役)  
[パシフィックコンサルタンツ株式会社] 新井、雨宮、米田  
[傍聴者] 12 名

## 会議次第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 議事
  - (1) スケジュールについて
  - (2) 比較検討地の抽出状況について (報告)
  - (3) 比較検討地の評価項目及び基準の考え方について
  - (4) 印西クリーンセンター老朽化調査について (中間報告)
  - (5) 次期中間処理施設の方向性、あり方について (事例紹介など)
  - (6) その他
4. 閉会

## 配布資料

- ・資料 1 業務実施スケジュール
- ・資料 2 比較検討地の抽出状況について
- ・資料 3 評価項目及び基準の考え方の例
- ・資料 4 印西クリーンセンターの建設における設計コンセプト
- ・資料 5 - 1 焼却施設現地視察結果報告
- ・ 5 - 2 現クリーンセンターの建設における設計コンセプト
- ・ 5 - 3 将来システムの方向性、あり方について
- ・資料 6 特徴のある焼却施設について

## 議 事

### 1. 開会

※配布資料の確認

### 2. 委員長あいさつ

※議事録署名人の決定

### 3. 議事

#### (1) スケジュールについて

※資料1の説明

[委員長] 質問、ご意見等はないか。

(なし)

#### (2) 比較検討地の抽出状況について

※資料2の説明

[事務局補足説明] 市町村から6個所の検討地と他に1個所の要望地というものがあります。

要望地についてご説明をさせていただくと、この土地の所有者の〇〇組合から「検討地の1つとして委員会へ上程していただくようお願いいたします。」と文章で頂きましたので、今回、委員会に上程をしたものでございます。この要望地の取り扱いにつきましては、委員会でご協議を願いたいと思います。

[委員長] 比較検討地の抽出状況について報告を受けた。それではご質問を。

[A委員] 当初から各地方自治体が検討地を推薦することとなっており、他の地区では自発的な申し込みを全く取り寄せないで動いているため、〇〇組合からの自己申告による要望は排除すべきと考える。

[B委員] 私もA委員と同じ意見で、公募のような形での申し込みかと思うが、これを認めると話の收拾がつかなくなる。

[委員長] お二方から排除するべきとのご意見ですが、他には。もしなければ、この要望についてはこの委員会としては採択しないということによいか。

[A委員] 印西市では〇〇組合の方の価値観というか、この辺りをどのように考えているか、参考として伺っておきたい。

[C委員] 検討委員会でこの要望の取扱い方法を検討していただければそれで結構と考えている。

[委員長] それではこの要望地は評価対象としないことにしたいと思うが、ご意見は。

[D委員] 市町村が推薦した6つの候補地については、もしここが適当だと決まった場合、地元から反対運動が起きる可能性がある。一方7番については、地元が自主的に検討下さいと言った土地であり、ポテンシャルが一番高いが、簡単に排除してよいのか。

[E委員] 〇〇組合がどの程度地元なのか。地元の理解があるというのは、他の検討地ではどれくらい地元の理解があるかを全くとってない中で、どの程度のものなのかが解らない。

[委員長] 確かにおっしゃるとおりで、たまたまその管理されている組合さんは OK とは言うものの、その近隣住民の方のご意見は、他と一緒に解らないのではないかという意見だったと思う。他にはよろしいか。それでは、非常に未知数の多い話でもあるため、この際この1点については、評価対象から外すということによろしいか。

(意義なし)

[委員長] それでは、この要望については、比較検討地としての評価はしないということで決定したい。

### (3) 比較検討地の評価項目及び基準の考え方について

※資料3の説明

[委員長] ただいまの比較項目、基準の考え方、重み付けについて、何かご質問は。

[E委員] 重み付けを何倍にするかについても、今日の検討事項か。

[コンサルタント] 実際に重み付けを何倍にするかについては、各項目のどこで重みを付けるかが決まった後、次回以降、事務局から、その決まったやり方に従って案を出させていただくつもりです。本日は、この重み付けの考え方として、小計、個別、中計など、どこで重み付けをつけるべきかについて、主にご議論いただきたいと思います。それから、場合によっては、重み付けをする時の注意点について参考としてご意見をいただければ、次回事務局からお出しする資料に反映させたいと思います。

[A委員] 重み付けであるが、やはりお金の問題を重み付けに入れるべきじゃないかと思うのだが、お金の問題がこのA3横の資料に入っていない。

[コンサルタント] この資料は、重み付けの考え方についてのものであり、項目は例としてお示しております。実際の項目はA3縦の資料に示しており、お金は20番から22番のグループに入ります。A3横はあくまでも解りやすくした例とお考えください。

[A委員] 評価項目に入っていないのだが、この前から鳩山首相が言われている炭酸ガス25%削減に対して、我々の焼却施設がどのような位置づけになるかということで、温暖化に対する削減効果も評価の項目にすべきではと思うのだが。

[コンサルタント] 地球温暖化の削減効果として差が出てくるとすれば、16番の収集・運搬効率であろうと思います。地球温暖化に配慮した施設にする等、その施設のコンセプトがありますが、場所による差は出ないと考えられ、検討地としての差は、この収集・運搬に出るとのことです。

[A委員] 生物多様性の森林の保存ということが大きな話題になってくると思う。生物多様性という項目はやはり追加すべきだと思う。

[コンサルタント] 生物多様性に関しては、12番の動植物の中に含まれていると考えているのですが、逆に項目として出さないということであれば、そのように委員会で決めていただければと思います。

[委員長] 今事務局の回答があったが、動植物の項目に含まれているという理解でいたが、もう少し多様性ということを強調するのであれば新たに項目として出すかどうか、この委員会で決めたい。

[E委員] その関連では、やはり項目は別にすべきだと思う。生物多様性というのは、貴重種があるかどうかに限らず、生物の生態系ピラミッドなど色々あるので、貴重種と生物

多様性は別項目の方が高得点になるかなと、自然保護・環境保護の立場から言わせていただきたい。先程の地球温暖化の件についても、やはりどこに重みを置くかという時に、重み付けを細項目で行うか、中項目で行うか、大項目で行うかにもよるが、細項目でたくさん評価があるところほど、この委員会として重点を置くということにつながってくると思う。それでやはり、生物多様性はより細項目の中に入れてほしい。もう1つ、中項目と小項目と大項目で重みをどこに置くか考えてほしいとおっしゃたが、大項目でつけるほど一般化するのだと思うが、それによって、評価の仕方、具体的な評価点数がどのように変わってくるかをお示しいただけるとありがたい。

[委員長] 例えば、今議論になっている生物多様性や動植物の保護についてもう1項目起こすべきだとなった時、細目、中項目、大項目のどれで起こすのかというご質問か。

[E委員] A委員さんは多分、細目の中に起こしてほしいという意見であったが、そのほかに、評価の仕方として、どこで重みをつけるかを判断してほしいとの説明があった。そうすると、例えば細目だけでつける場合、あるいは中計だけでつける場合で、どのような評価の差が出てくるのか。そこを具体的に教えていただけたらと。

[コンサルタント] どういう違いが出てくるかは、実際に重み付けの点数を何倍にするかや、元の点数によって違ってくるので、一般的に必ずこう違うというのは言いづらいのですが、単純に考えると、A3横の1番下に大計という点数があり、点数が高い方を高得点として考えた場合に、何も重み付けをしなかった1番左の単純評価であれば、A候補地が劣りBとCが同程度の評価を得ています。それで、「個別重み」で重みをつけた場合には、傾向はほぼ同じですが少し差が出てきています。また、「小計重み」では、明らかに差が出ています。その時のそれぞれの点数が、重みをつける場所によって変わるということなのですが、普遍的な違いについては言いづらいところはあります。

[副委員長] 細目の部分で重みをつけると、例えば、法令関係の中でも災害の危険性は非常に重要だからこれを何倍かに重み付けすると。これに対して航空規制はあまり重要でない、煙突の高さを少し考えればいい、ということになると、やはりここで差別すべきじゃないかという気がする。それに対して、中項目、大項目全体で重み付けすると、検討地としての適性が環境影響評価面よりも重いのか軽いのかという議論になり、よその皆さんに迷惑をかける環境影響の方を重要視するから、この項目を全体として重点化するという考え方になると思う。大項目の環境影響評価のウエイトを高くすれば、それに対して、建てられるところで合理的に建てる、建てられなければおかしいということで検討地の適性に重みをつけることになるかと。検討地の適性といっても、細項目までいけばあまり関係しない項目もあるので、やはり細項目のレベルで1つ1つ吟味して重み付けした方が、理屈としてはわかりやすい。

[委員長] 大中というのは、くくってしまっただけで色々な要素が入ってきてしまうので、1番要素的な考え方からすれば、この細目でもってほしい決まる、ということであったが。この原案もそういう作りになっているということではいいか。

[コンサルタント] 原案は、並べておいて、そのうちどれを選んでもらうかという形になっています。

[委員長] 細目を基本ベースにした評価付けで、あとは数値的にどう重みをつけるかとなるため、その数値をやはり1つ1つ考えていく必要はある。他には。

[B委員] 縦長のA3資料で、17番、景観への配慮と駅からの距離と両方入っているが、これは駅から近いと景観が悪くなるのか。駅から近い方がいいのか、遠い方がいいのか。学校からの距離と同じように考えたらまずい。駅からの距離と景観の配慮は別なものなので、別項目にするか、もしくは評価が難しいのであれば駅からの距離を削除するか、どちらかと考える。あともう1つ、温暖化の問題では収集・運搬効率だけを挙げているが、下にあるごみ焼却の廃熱をどれだけ利用するかがすごく大事だと思うのだが、それが評価されていないのであれば困る。最近、法律上は焼却施設でなく熱回収施設と言うくらいである。

[委員長] これは先程の事務局からのご説明によると、今回は場所の評価であって、そこに何が建つかということについては切り離して考えた時、温暖化に関する項目は収集・運搬の距離だけではないかというご説明だったと思うが、いかがか。

[コンサルタント] 今19番の中に地球温暖化という表現もありますが、この余熱利用の観点と今B委員さんがおっしゃった観点というのは、まさにそこで評価をするということで、地球温暖化の大きな項目としては挙げていませんが、地球温暖化の要素としては先程の16番と今の19番には含まれているつもりです。逆にそれを先程と同じように、1つの項目として表に出しなさいということであれば、そういう項目を作ってお示しすることになります。

[B委員] 確かにこの発電以外の余熱利用先があるかというのは、場所の選定として非常に大事なところであると思う。いずれにしろ、温暖化も入っている話ですよというなら解った。それで、先程の駅からの距離というのは、景観と全く別の話ではないかと。

[委員長] 駅からの距離はどういう理由で項目に入ったのか。

[コンサルタント] 前回の議事の中で、委員のご提案がありまして、景観への配慮、駅からの距離というもの、メインとしては景観への配慮が主だったと思いますが、そのようなご意見があったものを今回入れさせていただいています。

[C委員] 実は街づくりの観点からということで、うちでも組合でも色々審議しており、その中で景観の配慮として、ここに焼却施設があってもいいのかと。確かに駅から近いと便利な面もあるが、そのような質問も出ているため、ぜひとも、分けてでもいいので評価項目の中に入れていただきたい。

[委員長] 要するに駅から見苦しいものが見えてはならないということか。

[C委員] ある面ではきれいなところもあるのかもしれないが、そのような意見もあるので、ぜひ評価の中に入れていただきたい。

[B委員] 問題は、駅からの距離が近ければ悪いのか、いいのか、この判断がなければ評価項目に入れられない。それを明確にしたら景観とは別な話だよとなれば、別項目を立てればよいのではと。

[委員長] 別の方がよさそう。

[E委員] 基本的な質問だが、これは全部プラスで足してあるが、例えば自然環境や動植物、生物多様性のところはマイナス評価になるのか。例えば高得点、高評価なのが好適地だという評価にすれば、自然環境については高得点ほど悪くないとなるが。

[コンサルタント] まずマイナス評価もあるのではということですが、1つの項目に対して、例えば1, 0, -1という評価をする場合と、1, 2, 3という評価する場合とで、最終的

に点数をつけていく上では同じ評価になります。相対評価としての差が1ずつあるという評価なので、マイナスをつけるとしていただいても構わないのですが、基本的には3段階であれば1, 2, 3という形でやっていただければと思うのですが。

[E委員] そういう意味では、高得点ほど好適地というわけではないということでしょうか。

[コンサルタント] ここでの高得点ほど高評価という意味は、中間処理施設として良い方向について高い点数をあげるということです。例えば、余熱利用に関して、余熱利用が十分出来るということが焼却施設として良いとすれば、余熱利用が出来るところを3点とします。それで、先程の自然環境、動植物では、貴重種が全くないところが3点となります。

[E委員] わかった。

[委員長] 数字の大きい方が、評価が良いということでしょうか。

[コンサルタント] そういう考え方でやります。

[副委員長] 先程から余熱利用の話が出ているが、この余熱利用の項目は、発電でバイオマスエネルギーを有効に使う発電施設にするということと同時に、周辺にその蒸気を使う余熱利用的な施設があるかの2つがあると思うので、案1で発電以外の利用先があるか否かで判断するのは片手落ちという気がする。それで、発電の時に場所によって違いが出るかという、送電線との系統連携があり、特別高圧が来てないと難しい、また、下水道がない場合にはプラント内での排水処理が必要となり、それによって発電効率が落ちてしまうなど、インフラ整備と密接に関係してくる。また、白煙防止装置の有無も発電効率に影響を与えるので、やはり場所によって影響を受ける。その辺はしっかり評価する必要があるのでは。もう1点、一般的事項として、敷地面積、土地の形状、地盤の状況があるが、これらはどちらかというと施設計画面で色々な制約があり、最終的にはコストに影響してくると思うので、評価の仕方によってはダブルカウントする可能性がある。建設費の上にも、施設本体で高くなる要素が入ってきており、そこにダブルカウントする可能性があるから、注意して評価項目の区分けをしないとまずいと思う。同様に、自然環境の水源のところに、地下水や放流先河川への影響とあるが、これも影響がないようにするために、排水処理設備を高度なものとしたり、高い場所に建設してピットも上に上げたりとなり、結局建設費にも影響してくる。結構複雑なので、その辺は気を遣いながら整理していく必要がある。

[E委員] 重みを加算する場合、色々な要因の中で点を加算することによってプラスになるものについては良いのだが、不適応な場合はマイナスの重みをつけたりマイナス点で評価したりしないと、不適応なものがいつまでも上位にいるのではと思うのだが。環境の立場に立てば、水源を確保しようと思ったら、そこに点数をつけてもネックになり、するとますますマイナス要因になるわけであれば、やはりマイナスカウントやマイナスの重み付けは必要なのではないか。

[F委員] 特に自然環境でマイナス評価をというお気持ちはよくわかるのだが、ゼロというのは標準がない。絶対評価できないというのが前提になっているので、そうすると先程の説明のようにゼロをとってもマイナスをとっても結果的には同じで出るはず。ただ、何をゼロとするのかが極めて難しく、多分結論が出ないと思うので、相対評価でやるならば、マイナスをつけずに1, 2, 3で加点していけば結果が出て来るので、重み

付けをきっちりやれば、変な結果にはならないと思う。

[委員長] 多分ご心配の向きは、1, 2, 3 とついた時に、仮に1であっても数値として評価しているのはおかしいということかと思う。これは考え方であるが、絶対値ではなく大小関係を問題にしているだけであることを理解していただければ、その疑問はなくなるのではと思う。

[B委員] 経済性についてだが、ここには建設と維持費があり、安い、普通、高い、と3段階で評価するようだが、本来であれば、例えば今比較検討地が6箇所あってどこを選んだら1番安くできるのかという時に、ただ安い、普通、高いという評価では、順番も決められないし、評価にならないと思う。本来なら、全部見積を取るのが1番良いのだが、どんな施設にするのかも決まっていない今の段階では無理である。先程先生からお話があった排水の問題は、むしろ現在ここは排水ゼロであり、今度の施設で排水を出すのか出さないのかで大きく変わってくる。排水はゼロにするのなら別にどこに川が流れていようが関係ない。だから、特に1番注目されるであろう経済性がこんないいかげんでいいのかと非常に疑問なので、現時点では全部削除してはいかがか。紛らわしい情報を発信してしまうのではないかなという気がする。順位付けもできない。

[委員長] 私もこの事務局案について実際まだ十分理解していないのだが、今用地について調べようとしており、そこに何が、どういうものが建つかについては、この評価の中から抜いたらどうかという気もするが、それはいけないか。とにかくふさわしい場所の選定のための評価リストであるという考え方に立てば、例えばここで余熱利用施設を造るとか造らないは今問題にしなくてよいのでは。

[D委員] 費用は構成市町村の負担金に跳ね返ってくるので、経済性は、造る側にとっては1番重要なファクターである。今回検討しようとしているのがこの評価基準で、現施設と他の候補地を一律に評価しようとしているからこのような問題になるので、経済性を抜くのであれば、現施設を除いた候補地だけの中で第一候補を選び、その第一候補に建て替えた方が有利なのかここでやった方が有利なのか、最後に横綱同士でやらせてみたらいかがか。最後に、移動した場合と、ここで更新した場合を比較する時に、移動した場合の温水利用の施設や事務所棟など含め、経済性についての評価を入れられれば、今は抜いてもいいと思う。

[B委員] どれくらいかかるのかはみんな関心を持つが、それが全然わからないのであれば、今入れてもしょうがない。当然他の地域に持っていったら、ここよりは絶対高くなる。

[委員長] 事務局の方でもう1回整理してご説明いただけるか。

[コンサルタント] まず、コストについて評価するというのは一般的で、それ自体は問題ないと思います。その時に、先程副委員長から、上の方の項目とコストの項目でダブルカウントしやすいので注意するようというお話があったのですが、造成面に関しては、例えば、デコボコした土地と平坦な土地では、デコボコの方が高く、それから、下水や水道などインフラが整備されている場所とそうでない場所では、どっちがどっちというような評価はできます。その時に、全部上の方でコスト面も入れて評価するという考えもありますが、具体的な額ではなくコストの大小を押さえておきたいというのが普通なので、その意味でこの項目が入っています。それで、委員長がおっしゃった、上屋については、こういう焼却炉を造るというのがあれば場所による違いは出ないと

いうお考えは確かにあると思うので、建設費の施設本体の差としては、備考にある杭とか地盤改良ぐらいの差しかないのではないかという考え方をしており、違いがつくものだけについて比較するという事です。先程、余熱のところで、発電を重視するのか、その他の方法でやるのかという話がありましたが、次の施設のコンセプトとして発電を重視するというのであれば、同じ発電効率の施設をどこの場所でも造ることができるということで差はできないですが、余熱を利用するといった時に、利用したくても周りに供給先の施設がない場合と、やろうと思えば供給できるような状況の場所については、その場所の特性として差をつけてもいいのではないかという観点での評価をしています。コストそのものについては、今B委員さんがおっしゃった、絶対額がわからなければ、お金が高い、安いでやってもしょうがないのではないかというご意見については、うなずける面もあります。というのは、実際の焼却施設は焼却炉本体自体がものすごく高く、その他の要素はトータルからすると相対的に低くなるので、そういう意味では変わらないからコストはやらなくてもいいという考えもあるかと思いますが、やはり個別にみると、先程の項目で高い、安いが出てくるので、一応示して、もしコストがそれほど重要じゃないということであればその重要度を下げ、もしくは逆に重要であればその重要度を上げるというところで評価していたらいいかなということでお示しをしています。

[委員長] 了解した。発電については先程副委員長がおっしゃったとおり、近くに高圧受電しやすい、あるいは逆送電しやすいとかいうインフラの条件も、やはりその土地を考える上での1つの要素と私も思うが。あとのことについても、例えば、ここは水を流せないところであるという反論もあったが、流せるのか流せないのか、あるいは公共下水道がそこにすぐ来ているのであれば放流水は公共下水道に流せるのか流せないのか、そのあたりについては、場所を決める上で重要な要素になってくると私も思う。

[F委員] 今の意見と重なるが、他の検討会でも議論したことがあるが、余熱利用に関しては、どんなにがんばっても発電は2割ぐらいしかいかない。焼却の場合にはCO<sub>2</sub>が出てくるので、発電すると評価されるが、それをなるべくゼロに持っていくためには発電だけでは駄目というのははっきり分かっている。余熱利用を増やしていく過程でゼロに近づく。そうするとやはり、先程からCO<sub>2</sub> 25%という話が出ているが、削減を考えれば発電プラス熱利用というのはかなり重要な要素になってくる。それから、副委員長から話があったが、放流できるかどうかは法律で決められていて、外は普通下水道がない限りは放流できず、その場合全量浄化させて、クローズで処理しなくてはならなくなっている。それが変わらない限りは、下水道の有無でかなり変わってきてしまう。それについては比較的簡単に、どれぐらい熱を使っているかという計算が出ているので、多分比較することはそれ程問題ではないと思う。

[委員長] いずれにせよ、色々議論、貴重なご意見が出ていると思う。それで、やはり先程副委員長がおっしゃられたとおり、細目はできるだけ原則エレメント、1つ1つがインディペンデントでないとまずいわけである。原則として言うと、ダブルカウントの恐れがあるということなので、そのあたりは気をつけながら細目に対してのウエイト付けをやっていきたいと思っている。

[B委員] インフラ整備の中で、道路であるが、例えば山林のところに造ると、その施設内の



道路だけ造ってもしょうがないわけだから、どこかの県道や町道、市道からひっぱってくる。そうすると、施設外の道路についてはその構成市町村が自分の金でやれと、その道は別にゴミ収集車だけが走るわけではないからという話になりかねないが、その道路施設というのはどう考えるのだろうか。このコストに入れるべきか、その市町村が自分でやれとなるからコストから外すとなるのか。それで大きな違いが出てくる気がするが。

[委員長] 当然、アクセス道路をさらに必要とするかどうかというのは、その土地を考える上での大きな判断要素になると思う。狭い道路しかないようだったら、近所の人ももちろん使える構造にはなるわけだが、ゴミ収集車が通れるような道路も造らなきゃいけないということになり、コストも高くなる。

[E委員] 1点だけ。水源関与の視点を見ていただきたい。ここはニュータウンが出来たために湧き水がどんどんなくなるという現象が起きており、水源関与で雨水の浸透とかそういう観点である。

[委員長] 水源等という項目の中で読み込んでいくことになる。

[副委員長] 1つ提案なのだが、かなり意見があるようなので、後日事務局に意見を寄せる形としてはいかがかというのが1つ。それから、確かにロジック上こういう項目をこういう指標で評価すべきであろうとは思いますが、実はなかなか定量化できないとか情報がないとかがある。実効性を考えると、例えば、用地取得の合意形成の難しさや見込み、その他に書いてある地元対策の必要度も、今のところとてもそんな情報は出てこないのではという気がする。さっきの経済性のお金の話もおっしゃるとおりで、非常に粗っぽい、だいたいこんなオーダーということでしか多分できないと思う。特に土地によって差が出たところを、その差に注目して、候補地としての適地性に差が出てくるというふうにもっていかないと、なかなか得点が出せないのではという気がする。その辺、方法論的に理屈上こういうのを評価すべきだというのはわかるが、情報をどうやって整理するか、よく考えておかないといけないと思う。その点も少し皆さんから意見をもらえるようにするといいい。

[委員長] ありがとうございます。やはりこの案1はマルかバツかで判定するというので、ここが今、副委員長がおっしゃられたような、非常に判定評価が難しいのではないかとというような項目が、そのものに該当するのではないかと。案2、案3は、どちらかという段階でもって判定するというものなので、比較的期待通りにいくのではという項目になっていく整理の考え方でよろしいか。今日は実は、まだ他にも議題が残っているので、この評価項目基準の考え方、ウエイト付けの考え方について、後の話になるが、もう1回委員会を年内にできるのであれば、そこで集中的に議論したいと思うが、開いてもよろしいか。

(意義なし)

[委員長] スケジュール的にも、この評価項目のところでもまだ進展が見られていないので、もう1回必要かなという気がする。事務局側として、もう1回この評価項目等についての考え方に時間を入れて、そこで仕上げたいと思うが、よろしいか。

[事務局] 事務局としては異論ありません。ただし、先程副委員長からありました、事前にご意見をということがありますので、意見を受け付けて、それから事務局から再度案を

提案させていただきたいと思いますので、その時間をいただければと考えます。

[委員長] では、また後ほど次回いつにするかについては、事務局から候補にあるような日程を出していただくことにして、この議論はこの程度にしておきたいと思う。

[G委員] コンサルにお願いだが、この評価項目については、ある程度コンサルも必要だと思ってたたき台として出していると思うのだが、この委員会で、なくてもいいのではと言われた項目は、削除して次回出していただきたい。重みでなんとか調整できているが、本当に必要ないものであれば、最初からない方がいいと思う。そうでないとずっと残り、同じ意見が次の時もあるんで、その中でやはり必要だということであればまた復活させるとかでもいいのではと思う。

[事務局] 委員長、先程D委員さんからご意見のあった、現在地を含めた一律で評価を行うのではなく、候補地だけでまず比較検討して、その後トップと現在地を比較してはどうかというものについては、いかがいたしましょうか。

[委員長] そういう絞込み方もあるが、何か他にお考えはあるか。

[A委員] 新しい場所だけで評価をまずして、その上位1位、2位ぐらいを選んでそれとの対比が私はいいと思う。

[事務局] その際に、最後は経済性をということでしたので、ある程度概算になりますけれども比較をするとの考え方でよろしいでしょうか。

[委員長] ではそのような形で進めていきたいと思う。

#### (4) 印西クリーンセンター老朽化調査について

※資料4の説明

[B委員] これは建物だけということによいか。

[コンサルタント] 建物だけです。リフォームに関しては、考え方としては、建物はそのまま今のものを使う、プラントについては、基本的には新しいもので取り替えてしまう。それから建物の中で、今の施設の隣の空地に更新するという比較を考えています。

[B委員] ということは、リフォームになると建物は使えないということか。それとも修繕すればまだまだ使えるということか。

[コンサルタント] 今の状況では、47年経つと見直しの時期が来る中、今既に23年経ってしまして、さらにもう7~8年使って30年後にリフォームをした後新しい施設で30年位使うとすると、全部で60年位使わなきゃならない。なので、今のまま何もしないで使うというわけにはいかないんで、必ず何らかの手を加えてやる必要がある。それから、今の施設を造った時の耐震の考え方と、今時点の考え方は、同じ新耐震という基準ではあるのですが、計算の仕方がちょっと違うので、そういう意味から言っても、耐震の補強をどうするかみたいなものについては、比較表の上では特質が出てきます。

[委員長] よろしいか。

#### (5) 次期中間処理施設の方向性、あり方について

※資料5-1、5-2、5-3、6の説明

[委員長] ありがとうございます。ただいま、パワーポイント等を通じて、中間処理施設に関する先進事例、あるいは今の施設の老朽化の具合、それから、この検討会の前の委

員会で重要なご意見があったことについて、それを踏まえた形でこの検討委員会も進めてほしいということと理解した。ご質問、ご意見ありましたらどうぞ。

[C委員] 先程候補地を横綱対決でという話があったが、当然今のこの場所ありきじゃないということではいいか。結局検討地とここを同じような条件で評価してもらえるとということ、まずはいいか。よろしくお願ひしたい。

[副委員長] 最初に説明があった業務実施スケジュールだが、用地評価業務の中の4番目にある現地踏査はどのようにされるのか。検討地の情報をこれで集められるのかというのが1つ。2つ目に、2番目の焼却施設の技術調査の中で、先程もちよつと問題になったが、地球温暖化対策やエネルギー利用の基本的な方針整理が、やはり設定する場所にも影響してきそうな感じがするが、こちらの作業は今どうなっているのか。

[コンサルタント] スケジュール上の現地踏査は、主にコンサルの作業としての現地調査ということでお示ししています。内容的には、今各検討地が出てきたので、先程の評価のA3の表の各項目を順次埋めるという作業をしています。そのうち、現地に行かないとわからない情報について、現場へ行って確認をすることを考えています。それ以外に、この後話が出るのかもしれませんが、委員の皆様方についても現地踏査がしたいというご希望があれば、検討するという話になっていると思います。なお、民間地など地権者の方のご了解があるような場所もありますので、そのあたりについては、各構成市町村の方のご意見、ご協力を受けながら調査をしたいと考えております。それから、エネルギーの関連のものについては、前回LCAの関連でご報告しましたが、その報告に基づいて今データを組合さんの方からいただいて作業していますが、実はなかなかデータが揃わないということで、私どもの方でモデルを組んで作業しようと、今並行して進めています。次々回の委員会では資料をお出ししたいと考えています。

[委員長] ありがとうございます。そういうことなので、現地調査についても、希望があれば委員会としても行くこともやぶさかでないとのことである。また、どうもこういった施設が近くに出来ては大変迷惑ではないだろうかと思っている方は是非、例えばこの街中にある渋谷清掃工場の近隣の住居との関係というものも、実際に目で見て確かめてみたいという希望があれば、見ていただくことも考えているようなので、希望を出していただければと思う。それから地球温暖化エネルギー等についての基本方針の整理、これは先程も色々議論があったところで、評価項目との絡みもあるので、是非今の段階でどの程度煮詰まっているかということについて、事務局から次回にでもお出しいただければと思う。その他何か。

[B委員] 今回挙がった比較検討地という6箇所か7箇所は丸秘か。それとも、環境委員会のようなところでも出していいのか。

[事務局] 基本的にはこの委員会自体公開ですので、丸秘ではありません。

[委員長] 何か他には。

(なし)

## (6) その他

(以下、評価項目に対する意見の提出方法について調整)

※意見は12月4日まで組合宛てに提出、提出様式・方法は自由

(以下、委員会開催予定日の調整)

※次回検討委員会は、12月14日(月)15時からで決定(資料は当日配布)

※次々回検討委員会は、平成22年2月2日(火)14時からで決定

#### 4. 閉会